明るく健康な生徒　正しい判断力をもち主体的に学び行動する生徒　豊かな情操をもち品位ある生徒

石神井中だより

練馬区立石神井中学校
校長　　山田　美鈴
令和７年９月４日
第５号

民主主義を支える筋肉

校長　　山田　美鈴

長い夏休みを終え、日常の学校生活がまた再開しました。昨年同様１学期終業式で「長い期間石神井中生に会えないのが辛い」と、正直に話をしました。私にとっては癒しの通常学校生活が戻ってきたこととなります。やはり学校は生徒が主役。生徒の声が聞こえないのは寂しい限りです。

さて夏休み中は家庭にいる時間が長くなることに比例して、スマートフォンやパソコンに向かう時間が長くなっていた生徒も多かったのではないでしょうか？

ＩＣＴ機器の利便性は優れており、スマートフォンなどで同じ言葉を検索しても、人によって表示される順番が異なります。これは過去の閲覧履歴によってキーワードとの関連性に応じて勝手にユーザーに興味のある記事が表示される仕組みになっているからです。とても便利ではありますが、いつの間にかユーザーの入手できる情報がその仕組みによって偏ってしまい、何かしらの主義主張であれば洗脳されてしまう危険性もはらんでいると言えます。ここ最近では政治家がこういったインターネットの仕組みを巧みに利用し、選挙活動に生かしているのも時代の流れと感じます。

常に物事を思考する際には多面的視野をもって、客観的なものの見方をすることが重要です。

デンマークには「民主主義の筋肉（デモクラシーフィットネス）」（以下デモクラ筋）という考えがあり、スポーツに筋力が必要なのと同様、民主主義をより良いものとするためには日頃から鍛えるべき筋力があるというものです。具体的には「傾聴筋」「共感筋」「発言筋」「反対筋」「妥協筋」等です。＜民主主義とはいえ十分な話合いをせず、多数決で物事を決めてしまうのは民主主義ではない。民主主義の本質は少数意見であっても尊重すること。少数の意見だからと言って切り捨てたりせず、対話を重ねていく中で合意形成を図っていくことである。＞（Wikipedia参考）という考え方です。まさに少数派の意見に耳を傾けるという「傾聴筋」や「妥協筋」が求められるということになります。

この「デモクラ筋」は幼い頃から学校や家庭の中で鍛えていくことが必要です。何事も検索方法を ICT 機器に頼ってしまうのではなく、日常の会話の中で育んでいくべきです。大人が一方的に物事を決めてしまうのではなく、まずは子どもの意見を聞きその意見を少しでも反映できるように努める。子どもにとっては、そうしてもらった経験が民主主義の小さな成功体験として積まれていきます。

「自分には何かを変えていける力がある」「自分は誰かの役に立つことができる」という自己有用感から、おのずと将来の社会進出につながっていく力となっていくものであると考えます。

学校では学級活動や生徒会活動等で意見を交わし合い、少数意見も尊重しつつ合意形成を図っていく活動を行っています。

２学期は修学旅行や合唱コンクール、職場体験、校外学習と学校行事が目白押しです。生徒同士の意見交流を尊重し、自分たちの力で作り上げげたという達成感を実感できる取組を進めてまいりたいと思います。今学期も本校教育活動にご理解ご協力のほどお願いいたします。